

執筆者一覧（掲載順）

金	貞	我	非文字資料研究センター元研究員 神奈川大学経営学部非常勤講師
田	島	奈都子	青梅市立美術館 学芸員
内	藤	久義	神奈川大学非常勤講師
劉	琳	琳	北京大学日語系 准教授
河	野	通明	神奈川大学名誉教授
2019年度 奨励研究 成果論文			
王	海	翠	非文字資料研究センター 2019年度奨励研究採択者 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程
王		麗	非文字資料研究センター 2019年度奨励研究採択者 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程 江蘇師範大学兼任講師 景德鎮陶磁大学専任講師
市	東	真一	非文字資料研究センター 2019年度奨励研究採択者 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程
蔣	明	超	非文字資料研究センター 2019年度奨励研究採択者 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程
張	高	娃	非文字資料研究センター 2019年度奨励研究採択者 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程
李		干	非文字資料研究センター 2019年度奨励研究採択者 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程

■編集後記

『非文字資料研究』第22号をお届けします。今号も図像から民具、儀式に至るまでさまざまな対象が分析された論文が揃いました。巻頭を飾る朝鮮時代の行列図の詳細な読み解きは、『東アジア生活絵引-朝鮮風俗画編』に新たな知見を加えるのと同時に、『日本近世生活絵引-琉球人行列と江戸編』といった、他地域の行列図の分析と比較参照されるべきものとなるでしょう。また中国製ポスター研究は、田島奈都子氏が本誌に発表してきたポスター史の一環をなすものです。他の論文においても、一つ一つの研究が隣接領域の研究と結びついて、議論を生み新たな視点を提示することを願ってやみません。

また今号では2019年度奨励研究の成果として、6本の論文が掲載されています。コロナ状況においてフィールドワークを実施するのが困難な時期にあつて、実地調査をふまえた研究は大変貴重なものとなっています。多くの研究者にとって現在は、かつて行ったフィールドワークをまとめ直す時期となっているかもしれません。「非文字資料研究」においてそれは忍耐の時期を意味するかもしれませんが、半面、情報を収集するめまぐるしい日常から離れて熟考できるチャンスのようにも思えます。

成果論文に限らず、今号に収められた諸研究は、各自がそれぞれ行ってきた研究を練り直しつつ新たな一歩を踏み出すような研究とすることができるでしょう。そのプラットフォームとして、『非文字資料研究』はこれからも存在し続けたいと考えています。(熊谷謙介)

■表紙説明

〈表紙〉

作品名：《樺太への旅行 新船千歳丸》

制作年：1921年頃

所蔵先：函館市中央図書館

《樺太への旅行 新船千歳丸》は、1921年の千歳丸の竣工に合わせて、製作された作品と思われる。日露戦争の勝利によって、1905年に日本領となった樺太は、この頃から観光開発にも力が入られるようになり、砕氷機能を持った千歳丸の就航に対しては、地元の期待も大きかった。

さて、本作は人物こそ、当時の北海道を彷彿させる人々に描き替えられているものの、裏表紙に掲載した、1910年代半ばのカシエによる《レッド・スター・ライン アントワープ-ニューヨーク》と、全体の構図が酷似しており、おそらく同作を翻案としたものと思われる。戦前期の日本においては、外国作品を翻案とした例が、数多く見つかっており、特に、海運や観光業界においては、こうした傾向が顕著であった。

では、どのようにして《レッド・スター・ライン アントワープ-ニューヨーク》が《樺太への旅行 新船千歳丸》に至ったかであるが、後者の作者が前者の実物を、直接見た可能性がないわけではない。しかし、前者は1914年3月発行の『ダス・プラカート』第5巻第3号に、カラーで掲載されていることを考慮すると、こちらを閲覧・参照した可能性の方が高いと思われる。なぜなら、当時の日本の図案界や印刷界においては、ドイツで編集発行されていた『ダス・プラカート』（英語の『ザ・ポスター』に相当）誌は、ポスターに関する専門書としてよく知られ、それなりの機関においては、定期購読されていたからである。

外国作品と接点を持つ人と機会が限られていた当時、翻案の実態はほとんど気づかれず、判明したところで、「勉強している証」として好意的に受け取られることの方が多かった。今から100年近く前の日本製ポスターには、このような面もあったのである。

〈裏表紙〉

作者：アンリ・カシエ

作品名：《レッド・スター・ライン アントワープ-ニューヨーク》

制作年：1910年代半ば

所蔵先：横浜みなと博物館

《レッド・スター・ライン アントワープ-ニューヨーク》は1910年代半ばの作品である。この時代は欧米においても、ポスターは圧倒的に縦長が多く、横長の本作は少数派となる。しかし、海運関係のポスターの場合、自慢の自社船の偉観を示すべく、船体を横から見たような向きで入れることが好まれた。このため、結果的にこの業界においては、横長作品が常に存在していた。

本作の作者であるアンリ・カシエ（1858～1944）は、地元のアカデミーで美術の訓練を受けた経験を持つ、ベルギーの画家である。しかし、カシエの壮年期は、多色石版印刷術の活用が、各方面で活発化した時期と重なることから、カシエは伝統的な画壇ではなく、絵入り新聞や書籍、ポスターや絵葉書といった、複製芸術の世界に自らの居場所を求め、同所で確固たる地位と名声を築いた。しかし、そうした場においても、カシエは自身に関心を持つ、フランダースの民族的な事物を、作品の中に取り入れることを忘れず、本作における人物が、民族衣装を身につけているのもそのためである。

本作の依頼主であるレッド・スター・ラインは、アントワープに本社を構えた、当時のベルギーを代表する海運会社であり、イギリスやアメリカに航路を持っていた。なかでも、本作が示すニューヨーク線は、フィラデルフィア線と並ぶ同社の主力航路であり、3本煙突のベルゲンランドも、大量の移民をヨーロッパからアメリカに運ぶと共に、同国で財をなしたアメリカ人を、観光客としてヨーロッパに誘致した。後者の場合、カシエの民族的な色彩の強い作風は、見る者の旅情を大いにかき立てたものと思われる。このため、今日のカシエは、ベルギーとオランダの初期観光事業に、貢献した人物としても知られている。（田島奈都子）

非文字資料研究 第22号

The Study of Nonwritten Cultural Materials No.22

発行日	2021年3月20日
編集・発行	神奈川県立歴史博物館 非文字資料研究センター 日本常民文化研究所
	〒221-8686
	横浜市神奈川区六角橋3-27-1
	http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/
印刷	共立速記印刷株式会社
雑誌コード	ISSN 2432-5481